

事例3) 暴風雨による空き家の屋根の飛散・道路閉塞事例

約30数年間管理不全状態だった空き家の屋根が爆弾低気圧により飛散、建物が倒壊し、前面道路(公道)を閉塞。自治体は危険排除のために屋根を撤去し、解体。撤去等の工事期間を含めて3日間道路を通行止め。

■建物 : 築約40年の3軒長屋

■所有者 : 不明

■空き家の状況

昭和59年頃から約30年間空き家状態。

■経緯

・平成24年4月: 屋根の一部が崩落したとして、近隣住民が自治体に通報。

自治体は現地確認後に、相続人と想定される複数の者に、消防法に基づく危険除去の改善通知文を送付。

・平成24年4月: 爆弾低気圧により屋根が飛散、道路を閉鎖。

自治体は道路上の飛散材を撤去。

⇒危険排除費用: 約28万円(自治体の負担)。

・平成24年6月: 道路の不法占用のため自治体が建物を解体・除去

⇒解体・除去費用: 約160万円(自治体の負担)

